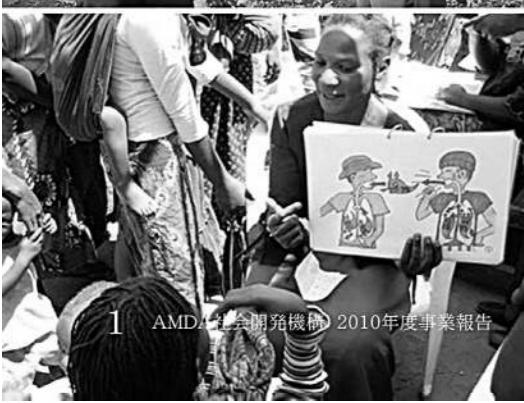
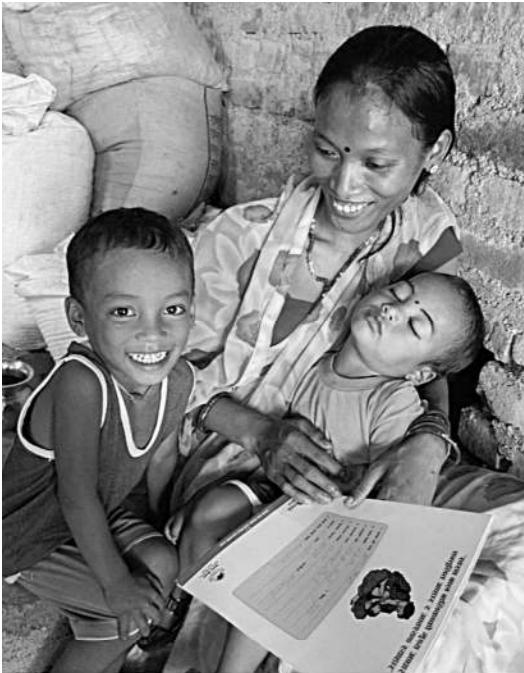




2010年度
事業報告書

特定非営利活動法人 AMDA社会開発機構



INDEX

目次	1
理事長挨拶	2
海外事業	3
ミャンマー	5
ネパール	8
ザンビア	11
ジブチ	13
ホンジュラス	15
ペルー	17
事業一覧	18
国内事業	19
会計報告	21
団体概要	22

ご支援ご協力くださっている皆様へ

理事長 鈴木 俊介

2010年度、当法人は設立4年目を迎え、海外7カ国（事業実施6カ国及び調査実施1カ国）及び日本国内において活動を実施いたしました。皆様からの継続的なご支援とご協力に心より感謝申し上げます。当該年度は、各国のプロジェクト並びに組織全体の緩やかな発展に伴い、いくつかの変化に対応する一年となりました。事業国によってシナリオは異なりますが、プロジェクト対象地域のニーズに応えるため、活動内容の一層の拡充に取り組んだ国（ホンジュラス、ペルー、ジブチ、ネパール、ミャンマー、日本国内：国内連携事業）、またニーズの絞り込みを図った国（ザンビア：限定された地域の結核対策全般から地域を拡大した小児結核対策へ）、そして新しい取り組みを開始した国（ザンビア、インドネシア）など様々です。

詳しくは次頁以降の「海外事業」をご覧頂きたいのですが、どの国、どの地域においても、現地の開発ニーズを最優先に考え、当法人の実施能力も勘案しプロジェクトを企画しています。そしてプロジェクトの最終受益者であるコミュニティに最も効果的、効率的（直接的）に便益がもたらされるよう活動を実施しています。一般にこうした特徴がNGOのプロジェクト実施アプローチと言えると思います。

その意味では、今年2月、関連団体と協力して国際協力機構（JICA）と契約締結に至ったザンビア国における小児保健サービスのシステム強化に係る技術協力プロジェクト（技プロ）への着手は、4年目に起きた大きな変化の一つに挙げられます。ODAを代表する技プロの直接裨益者は、通常相手国政府（中央及び地方行政機関）であるため、行政サービスの受け手である最終裨益者、つまりコミュニティ住民への便益の波及の度合いが常に課題となります。一方、コミュニティへの裨益効果を最優先に考慮するNGOにとって、中央政府をパートナーとして、行政のガバナンスやシステム強化に深く関わりながら事業運営に取り組むことは、新たな挑戦と言えます。

以前、JICAの緒方貞子理事長とノーベル経済学賞を受賞したアルマティア・セン教授が共同議長になつ



てまとめられた『人間の安全保障』のコンセプトは「人間一人ひとりに着目し、生存・生活・尊厳に対する広範かつ深刻な脅威から人々を守り、それぞれの持つ豊かな可能性を実現するために、保護と能力強化を通じて持続可能な個人の自立と社会づくりを促す考え方」であり、「今日の国際課題に対処していくためには、従来の国家を中心に据えたアプローチだけでは不十分になってきており、『人間』に焦点を当て、様々な主体及び分野間の関係性をより横断的・包括的に捉えることが必要である（「外務省ホームページ」より）」と謳っています。

誤解を恐れずに述べると、これは伝統的にNGOが大切にしてきた国際協力哲学とも言えます。こうした理念が、ODA指針の一つとなる画期的な時代を迎えたことを嬉しく思います。最近、NGOが実施するプロジェクト向けODA資金の拠出額が増加傾向にあり、また市民社会やコミュニティとの連携が成功のカギを握るJICAの公示案件が増えつつあることも、「ODA改革」が進展していることの表れであると考えます。

当法人としては、資金提供元がJICAであれ、あるいは外務省や国際機関の協力を得て実施されるプロジェクトであれ、最終受益者の目線、支援される側のプライドを大切に、裨益者が活動に参加でき、そして彼（女）らが能力強化を通じて便益を確実に享受できる仕組みの構築に尽力し、今後も質の高いプロジェクト運営に取り組んでいきたいと考えています。皆様には、これからも引き続き、ご支援ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、3月11日に東北地方を襲った巨大地震と津波により、かけがえのない多くの命が失われました。改めて心より哀悼の意を表すとともに、遺族の方々の痛みと悲しみが早く癒されますよう祈念申し上げます。

海外事業

● Djibouti ジブチ

・難民医療支援

AMDA logo

Icon set: 1. Bowl with steam, 2. Pencil, 3. Female symbol, 4. Baby, 5. Male symbol, 6. Crossed bottle and syringe.

● Nepal ネパール

・母子保健向上

Icon set: 1. Female symbol, 2. Baby, 3. Male symbol, 4. Crossed bottle and syringe.

● Honduras ホンジュラス

・母子保健向上
・HIV予防啓発

Icon set: 1. Baby, 2. Male symbol, 3. Crossed bottle and syringe.

● Zambia ザンビア

・結核対策
・コミュニティ自立支援

Icon set: 1. Bowl with steam, 2. Crossed bottle and syringe, 3. Female symbol, 4. Baby, 5. Male symbol, 6. Crossed bottle and syringe.

● Myanmar ミャンマー

・母子保健向上
・生計向上
・村落保健改善

Icon set: 1. Bowl with steam, 2. Pencil, 3. Female symbol, 4. Baby, 5. Male symbol, 6. Crossed bottle and syringe.

● Peru ペルー

・母子保健向上

Icon set: 1. Female symbol, 2. Baby, 3. Male symbol.

2010年度は、アジア(ミャンマー、ネパール)、アフリカ(ザンビア、ジブチ)、中南米(ホンジュラス、ペルー)の6カ国において事業規模の拡大、事業内容の充実を図る年となりました。

ミャンマーにおいては、昨年度より継続してきた健康増進・生計向上の活動の対象地域を拡大するとともに、内容の充実を図りました。また、ネパールでは、西部タライ(平野)地域における少数民族や貧困層の母子の保健向上を支援する包括的な取り組みとして、新たに3つの事業を開始しました。

アフリカにおいても、ザンビアの結核対策のアプローチを確立させ、それを活かした新規案件を開始しました。また、ジブチにおいては、ソマリア難民の増加を受け、医療サービスを拡充しました。

中南米においては、ホンジュラスにおける母子保健向上とエイズ対策、ペルーにおける母子栄養の取り組みを継続し、事業の質の向上を図りました。

さらに、コンサルタント業務において、ザンビアの都市部における小児保健のシステム向上を目指したJICA技術協力プロジェクトの業務実施を当団体として初めて共同受注しました。

これらの事業実施を通じて、活動対象地域の約80万人の健康増進・生計向上に直接的・間接的に貢献することができました。

わたしたちの各国での活動と国際社会の目標であるミレニアム開発目標(MDGs)との関連性を図に示しました。



ミレニアム開発目標(MDGs: Millennium Development Goals)とは国際社会が2015年までの達成を目指す以下8つの目標です

1. 貧困と飢えをなくそう
2. みんなが小学校に通えるようにしよう
3. ジェンダー平等と女性のエンパワーメントを推進しよう
4. 子どもの死亡率を減らそう
5. 妊娠・出産する女性の健康状態を改善させよう
6. HIV/エイズ・マラリア、その他の病気が広がることを予防しよう
7. 人々の生活の発展と地球環境の保全を両立させよう
8. みんなで協力して世界から貧困をなくそう

Myanmar



東南アジアに位置するミャンマーは、面積は日本の約1.8倍、人口約5000万人、ビルマ民族をはじめとした135の民族からなる国です。南北に長く広いこの国でAMDA-MINDSは現在、地理、気候、民族などが異なる地域で、それぞれのニーズに沿った事業を展開しています。

中央乾燥地と呼ばれる地域にあるメティラ郡とパコク郡は、年間降水量が少なくインフラも不十分なため、農業だけで生計を立てたり、自分の土地を持たなかったりする世帯が安定した収入を得ることができません。乾燥した気候や水不足による疾病の多い地域でもあります。このような要因により貧困度の高いこの地域で、農業をはじめとする生業の安定を図る生計向上と、健康を維持するための保健教育を実施しています。

一方、中国と国境を接するミャンマー北東部の北シャン州コーカン自治地域には、少数民族の中でも多数を占めるコーカン族に加え、小規模の異なる民族の村々も山岳地帯に点在しており、それぞれが独自の文化や言語を持っています。こうした地政学的背景からインフラ整備が十分に進んでおらず、公的なサービスが届きにくい地域もあります。このような状況の中で、AMDA-MINDSは一層行き届いたケアを必要とする母子を対象とした活動を行っています。



■ メティラ郡における生計向上プログラム〔フェーズ 1〕 (2010 年 6 月～)

本事業は 1998 年にメティラ郡の 2 村において保健教育と小規模無担保融資活動を開始したことが契機になっています。その後徐々に事業対象村や活動内容を拡充し、2010 年度は 49 村における活動に取り組みました。

事業対象村に住む貧困層世帯の女性約 1,900 人に対し、1) 保健教育、2) マイクロクレジット（小規模無担保融資）、3) 健康保険、4) 貯蓄、5) 職業技術研修の

5 つのサービスを提供することで、女性たちが健康を維持し、融資や職業技術研修の成果を活用して農業や畜産といった自身の生業による収入を増やし、生活を向上させていくことを目指しています。

2010 年度の活動では、1) AMDA-MINDS スタッフによる保健教育や女性同士による保健教育（ピアエデュケーション）を延べ約 1,000 回、2) マイクロクレジット、3) 338 人の健康保険の利用、4) 592 人に対する農業研修および 672 人に対する畜産研修を実施しました。



農業研修（キノコ栽培）を受ける受益者



プログラムについてミーティングを持つ受益者

なお本事業は外務省「日本 NGO 連携無償資金協力」、株式会社フェリシモ「フェリシモ地球村の基金」、鎌倉ロータリークラブ、かながわ湘南ロータリークラブ他、多くの皆様のご寄付を得て実施されました。

■ パコク郡 31 村における「Healthy Village」プロジェクト〔フェーズ 1〕（2010 年 2 月～2011 年 2 月）

本事業は、事業対象地域において、村人たちが自分たちにとっての「Healthy Village（健康な村）」とは何かを考え、その実現に向けた活動を後押しするもので、パコク郡の 31 村で実施されました。村ごとに 5 人の代表を選んで 1 組のチームを作り、そのチームを中心に次のような保健医療改善活動を進めました。



「健康な村」について話し合うワークショップ

1) 水と衛生状況の改善：155 人のチームメンバーに水と衛生状況に関する調査研修を実施し、村内のニーズおよび現状分析調査を実施しました。その調査結果を基に、31 村で 2,442 基のトイレを建設するためのアクションプランを作成しました。

2) 保健教育：155 人のチームメンバーに保健知識の調査研修を実施し、各村で調査を行いました。その結果、住民への保健教育が必要な 6 つのテーマ（結核、下痢、 Dengue熱、栄養、個人衛生、急性呼吸器感染症）を把握することができました。そして、これらに関する保健教育指導のために、チームメンバーに対するトレーニン



救急法を学ぶ受益者

グを行いました。その後、メンバーは各村で住民への保健教育を実施し、31 村で延べ 4,773 人の住民が保健知識を習得しました。

3) 救急救命：152 人のチームメンバーに対し救急救命研修が実施され、蛇咬傷、外傷、骨折の手当、打撲による内出血や火傷の応急処置、患者の運び方などを学ぶ機会が提供されました。

4) 村落基金の設置：チームメンバーのうち 138 人が資金マネジメント研修に参加し、基金運用方法や帳簿管理を学びました。その後コミュニティより基金を募り、当法人からのマッチングファンド（自助努力を通じて募った資金と同額の資金）と併せて、患者搬送のための運用を開始しました。

5) 患者搬送：31 村の患者搬送および村落基金チームから 62 人のメンバーが、村落基金を利用して患者搬送サービスを行っている村へのスタディツアーに参加しました。基金原資を回転させて資金を持続的に確保するシステムや、搬送先である保健行政との協働の仕方についての事例を学びました。

6) 地域補助保健センターの建設：老朽化が進んでいた 3 つの地域補助保健センターの建設を行い、4 つの地域補助保健センターに医薬品・備品・文房具を提供しました。12 月 15 日には在ミャンマー日本国大使館はじめパコク郡の行政関連機関などの来賓を迎え、保健センターの譲渡式を行いました。



地域補助保健センター譲渡式（前列左男性：野村書記官）

上記の活動に加え、各村独自に「Healthy Village」を実現する特別な活動を計画しました。2011 年 2 月に開始した本事業フェーズ 2 では、上記の活動コンセプトを深め、各村独自のプランに基づいて活動を実施し、更なる「Healthy Village」の実現を目指します。

なお本事業は、外務省「日本 NGO 連携無償資金協力」、株式会社フェリシモ「フェリシモ地球村の基金」他、多くの皆様のご寄付により実施されました。

■ コーカン自治地域における母子保健事業[フェーズ1]

(2010年7月～)

2007年から母子の栄養と健康改善を目的として事業を継続してきたこの地域で、より包括的に母子の健康改善を目指すための事業を2010年7月より3年間の計画で開始しました。



母親たちへの保健教育

本事業は96村を対象として、1) 3歳未満児および妊婦と授乳期にある母親に対する栄養補助食および微量栄養素の配給、2) 子どもの成長記録促進、3) 栄養不良児への家庭訪問とフォローアップ、4) 村落レベルでの母子の健康改善活動のキーパーソンとなる母親たち（母親グループメンバー）への保健教育トレーニング、5) 公的保健医療サービスの提供支援を行っています。2010年度は延べ35,898人の母子に対する栄養補助食の配給と成長記録、345人の栄養不良児の家庭訪問実施、延べ2,979人の母親グループメンバーに対する保健教育（リーダー）トレーニング、延べ14,652人の母親に対する保健教育、653人の妊娠婦健診を支援しました。



母親グループによる子どもの体重測定

本事業を通して、事業対象地における「十分な栄養を摂取できていない世帯」の割合が35%から18.7%に減少する、妊娠婦健診の受診率が13.7%から22.1%まで上昇する、公的保健医療サービスの利用者が8%から33%に増加する、などの成果が確認されました。

コーカン自治地域では、初等教育就学支援活動も行っています。2010年度は26の小学校に通う1,801名

の児童を対象に、学校給食を提供しました。

本事業は、外務省「日本NGO連携無償資金協力」、WFP（世界食糧計画）、株式会社フェリシモ「フェリシモ地球村の基金」、神戸甲南ライオンズクラブ他、多くの皆様のご寄付により実施されました。



食糧配給の油を分け入れる母親グループメンバー

■ パッセンチョー地域保健センター整備事業

(2010年2月～)

コーカン自治地域における公的保健医療サービス支援の1つとして、地域保健センターの整備を支援しています。自治制度が長く続いたため、独自の保健医療サービスが提供されてきましたが、2007年8月にミャンマー政府により発表された「国境地域における保健医療体制強化方針」に則り、これまで一次医療施設だった国境診療所が「地域保健センター」に格上げされ、二次医療施設となりました。本事業はその役割に沿ったサービスが提供されるよう、地域保健センターの建物と必要な医療機材などの支援を行っています。2010年度は本事業に関して地域住民と協働するためのワークショップを行い、建設を開始しました。完成は2011年度の予定です。

なお、本事業は外務省「日本NGO連携無償資金協力」により実施されています。



建設中のパッセンチョー地域保健センター

Nepal

ネパール



ネパールは、アジアの中で最も妊娠婦死亡率が高い国の一で、母子保健が保健分野における最優先課題となっています。とは言え、保健指標によって示されるその深刻度は国内均一ではなく、都市部と地方部、そして富裕層と貧困層との間には大きな格差が生じています。例えば、AMDA-MINDSが活動するネパール南西部タライ平野に多く住む民族（タライ、マデシ）の妊娠婦死亡率はネパール平均の1.3倍と高く、妊婦10万人に対し年間307名の女性が妊娠関連の要因で死亡しています。

山岳地帯における妊娠婦死亡の主な原因是、医療機関への困難なアクセスという地理的要因に求められる一方、平野部農村地域における妊娠婦死亡の原因は、その多くを社会的・経済的な要因が占めています。不衛生な環境下における分娩に起因する感染症、妊娠中毒症による子宮子癪、出産前後の多量出血などは正しい知識と適切な妊娠婦健診を受診することによってある程度防ぐことができますが、経済的要因で緊急時に適切な医療サービスを享受できない人々も少なくありません。AMDA-MINDSはこういった状況を改善するために、ネパール南西部タライ平野に位置するルパンデヒ郡とナワルバラシ郡において、現地NGOであるAMDAネパールと連携し、母子保健向上支援事業を行っています。



■ ルパンデヒ郡16村における住民能力強化を通じた母子健康増進事業 (2010年11月～)

ルパンデヒ郡16村において、母と子の健康増進を目的に、3つの活動を実施しています。

活動1) 女性グループの能力向上支援

活動2) コミュニティ基金による活動運営支援

活動3) サブヘルスポート（公的第一次保健医療施設）の診療環境改善支援

活動1では女性グループリーダーに対する保健衛生研修の開催、女性グループリーダーが実施するピアエデュケーションに対する技術的支援の他、各種キャンペーンの開催を行っています。活動2では、女性グループが設立したコミュニティ基金運営に対する技術的支援を行う他、同基金を利用して実施する各種コミュニティ活動を側面支援しています。活動3では、サブヘルスポートに対する資機材供与や、サブヘルスポート管理運営委員会に対する技術的支援を行っています。ネパールの農村社会において、女性は不利な立場にあることが多いのですが、こ

の活動を通じて、相互扶助の関係をもとに女性たちの自立促進を目指しています。なお本事業は、外務省「日本NGO連携無償資金協力」の他、多くの皆様からの寄付により実施されています。



子どもの成長記録に訪れた母と子

■ ナカルパラシ郡 4 行政村における母子健康改善事業
(2010 年 11 月～)

ナカルパラシ郡の4行政村において、母と子の健康増進を目的に、4つの活動を実施しています。

活動1) 女性グループの活性化および能力強化支援

活動2) コミュニティ基金の設立支援

活動3) 緊急搬送体制の確立と改善支援

活動4) サブヘルスポート(公的第一次保健医療施設)の診療環境改善支援

活動1では、村ごとに女性グループを設立し、女性グループリーダーに対する保健衛生研修の開催、彼女らが実施するピアエデュケーションに対する技術的支援、各種キャンペーンの開催を行っています。活動2では、女性グループによるコミュニティ基金設立支援ならびに運営に対する技術的支援に加え、基金を利用して実施する各種コミュニティ活動を側面支援しています。活動3では、緊急搬送体制改善のワークショップ開催や、策定された改善案の実施を側面支援しています。活動4では、コミュニティ住民とサブヘルスポートのパイオニア的役割をなすサブヘルスポート管理運営委員会への技術的支援を行うことで、サービス提供側、受け手双方の調和をはかり、住民の声が反映された医療サービス作りを目指しています。

なお本事業は、独立行政法人国際協力機構(JICA)「草の根技術協力事業(パートナー型)」として実施されています。



3大栄養群について学ぶ女性メンバー



サブヘルスポート管理運営委員会の研修

■ ネパール東部ジャバ郡における周産期ケア向上支援事業

(2010年3月～2011年2月)

ネパール東部ジャバ郡メチナガル市のAMDAメチ病院において、周産期ケアサービスの向上を目的に、医療機材供与と人材育成支援を行いました。供与した医療機材はECGモニター、胎児用心拍数測定ドップラーなど13点にのぼります。これにより緊急搬送時の母子状況が的確に把握されるようになり、夜間・緊急外来の受け入れ体制が確保されました。その他、医療用冷蔵庫の設置により、予防接種のワクチンを常備できるようになりました。これにより、予防接種者数が対2009年度比で2倍にまで増加しました。また、同院の看護師1名が「有資格助産師研修(Skilled Birth Attendant Training)」を受講し、通常分娩介助法に加え、新生児ケアやリスク対応法などを学びました。

なお本事業は、株式会社フェリシモ「フェリシモ地球村の基金」のご支援により実施されました。



病院内の様子



病院に供与した機材

■ シッダールタ母子専門病院周産期医療向上事業

(2010 年 4 月～)

ルパンデヒ郡ブトワル市にある慈善病院「シッダールタ母子専門病院」において、周産期ケアサービスの向上を目的に、医療機材供与と人材育成支援を行いました。

供与した超音波ドップラーや酸素モニターは、産婦人科

病棟と新生児特別集中治療室で活用されています。また、7名の日本人専門家(保健政策専門家、周産期医療専門家、周産期ケア技術指導等)を派遣し、同院に勤務するスタッフに対し小児一次・二次救命などの技術指導を行いました。その他、病院スタッフによる母親学級が計89回開催され、延べ1,812人の母親が参加しました。その結果、80%の妊娠婦とその家族が周産期医療サービスに対し「満足している」と答えました。



シッダールタ母子専門病院

小児科、産婦人科、新生児特別集中治療室を備えるシッダールタ母子専門病院は、ルパンデヒ郡ブトワル市な

らびに周辺地域において、母子保健医療サービス提供を専門とする唯一の医療施設です。同院における周産期医療サービスを改善することで、将来的にはこの地域における周産期指標を改善することを目指しています。

なお本事業は、「平成21年度国際ボランティア貯金」から寄付金の配分を受け実施されました。



病院スタッフによる母親学級



日本人医師による小児救命研修

現地からのメッセージ

シッダールタ母子専門病院で活動した川嶋佳子看護師

9月中旬から2月中旬までの約5ヶ月間、シッダールタ母子専門病院で周産期ケア向上を目的とした技術指導に携わりました。現地スタッフのニーズや意見・痛みを取り入れながら、現地スタッフの主体的な活動の促進を念頭に置き、主に母子啓発活動やOJT(On the Job Training)、看護ケアマニュアルの改訂等に取り組みました。活動期間中、篠原医師*の遺影の前にたたずむ患者父子や、今までの専門家との活動を誇らしげに語る現地スタッフを目の当たりにしました。開院から12年の時が過ぎ、国の状況や人の入れ替わりとともに変化してきた同院で活動出来たのは、今まで関わった全ての方々のおかげだと感じています。

(*同院設立を含め、ネパール過疎地域の保健医療の向上に尽力された故・篠原明医師)



右が川嶋看護師 ▲

シッダールタ母子専門病院で出産した女性(19歳)

グルミという町から救急車で5時間かけて、この病院に搬送され、帝王切開で無事出産することができました。初めてのお産、また緊急ということもあり非常に不安でしたが、看護スタッフの皆さん気が遣ってくれ、また励ましの声をかけてくれました。母子ともに健康でいられるのは、この病院のおかげです。

Zambia

ザンビア



アフリカ南部に位置する内陸国ザンビアは、アフリカでもっとも平和な国の一として評価される一方、人口の6割を超える800万人以上が1日1.25ドル以下（世界銀行が定める貧困ライン）で生活する貧困層が占め、大半の国民の生活状況は厳しいと言えます。

当団体は、1998年からザンビアで活動を開始し、現在は首都ルサカ市で小児結核対策事業とコミュニティセンター支援事業を行っています。ザンビアは推定HIV感染者数約120万人、結核患者数約7万人が治療を必要としている国です。結核患者の実に70%がHIV陽性患者であり、死にいたる可能性が高い合併症として、結核を発症しています。

結核の治療は6ヶ月から12ヶ月を要し、この間毎日薬を飲み続けなければなりません。結核治療の難しさは、治療を開始した患者さんが途中で面倒くさくなってしまったり、忘れてしまったりして、服薬を治療の途中で中止してしまうところにあります。中途半端な治療では、一時良くなったように見えても、結局、結核の再発を起こしてしまいます。さらに深刻なのは、不完全な投薬は、従来の安価な治療薬では効果がない薬剤耐性結核菌を生む原因となることです。このような問題を防ぎ、薬を確実に飲み続けるためにWHOが推奨している方法がDOTS（Directly Observed Therapy, Short-course/直接監視下短期化学療法）です。結核患者さん一人ひとりの内服を医療従事者もしくはキーパーソンとなる人が毎日確認することで、治療からの脱落を防ぎます。



■ HIV/エイズ結核対策事業（2010年11月に終了）

2008年6月から2010年11月までの2年半、AMDA-MINDSは首都ルサカ市とその近郊の貧困地区で、結核・エイズ統合治療支援事業を行いました。

本事業は、地域の保健ボランティアに基礎的な結核の知識や治療方法を学ぶ機会を提供し、結核治療センターとなってもらい、このDOTSの要としました。結核治療センターは患者さんに薬を飲み続けることの大切さを説明し、支えてくれる家族がいることを確認します。家族から十分なサポートが得られない患者さん宅へは家庭訪問を行います。またしばらくヘルスセンターへ薬を取り



結核治療センター

に来ていない患者さんがいると、家を戸別訪問して、なぜヘルスセンターへ来ていないのか原因をつきとめ、治療が続けるよう患者さんを励まします。結核やHIV/エイズについての誤解、偏見も根強く、地域の中でいわれのない差別を受けることもある中、患者さんにとって、結核治療センターは大変頼りになる存在となりました。

<事業の成果>

結核治療センターは、コミュニティの力で結核・HIV/エイズを予防していく、という動きをつくりました。

- ・本事業で活躍した結核治療センター：73人
- ・センター支援を受けた結核患者数：月約1,500人
- ・センターによる家庭訪問回数（事業期間）：23,654回

本事業により、対象地区保健センターにおいて、結核治療が大きく改善しました。

	事業開始時	事業終了時
結核治療成功率	86.9%	94.7%
結核治療脱落率	1.6%	0.9%
結核治療中の死亡者率	11.1%	4.4%

結核センターはコミュニティでの保健教育を行うことによって、結核の予防に貢献し、結核への差別を減らしました。

- ・結核とHIV/エイズ教育を受けた地域住民数：65,812人

	事業開始時	事業終了時
結核に感染したことを家族に打ち明けるのをためらったと答えた患者	25%	12%
結核に感染した親族との付き合いを避けたと答えた人	5%	1%
HIV検査を受けている人の率	30%	61%

なお本事業は、独立行政法人国際協力機構（JICA）「草の根技術協力事業」として実施しています。

■ 小児を中心とした結核対策事業（2011年1月より開始）

AMDA-MINDSは2011年1月より、首都ルサカ市のコンパウンド（都市非計画居住地区）6地区において、小児結核を中心とした結核対策事業を行っています。この事業は、先述の結核・HIV/エイズ対策事業を基盤とし、更なる試みとして、成人に比べて診断や治療が難しい小児に焦点を当てた感染の予防、早期診断、適切な治療など総合的な結核対策事業を行っています。

なお、本事業は外務省「日本NGO連携無償資金協力」として実施しています。

■ コミュニティセンター支援事業

AMDA-MINDSは首都ルサカ市の貧困地区の一つであるジョージ地区において、コミュニティセンターを支援しています。当センターは保健省より2.8haの土地の提供を受けた2001年から活動を開始し、主にジョージ地区で活動する保健ボランティアに対する支援を目的として、小規模の農場、養鶏場、駐車場を経営する他、縫製教室、コンピューター教室、識字教室などを地元コミュニティのために運営しています。

平成21年度国際ボランティア貯金寄付金により、同センターの全般的な活動の拡充を支援し、各研修（有機農業研修、マネジメント能力強化研修、組織向上トレーニング）を行ったことで、より安定的な農畜産物の生産が可能となりました。また、当法人の小児結核支援事業と連携し、ジョージ保健センターに所属する保健ボランティアに対する

支援に加え、同センターで開催される栄養改善教室に参加する小児結核患者やその保護者に農場で生産した作物を供給することができました。

＜ノリオカハウスによる資金援助＞

持続可能な社会開発モデルの追求として則岡美保子氏の支援を受け、賃貸住宅を設計し、その家賃収入をコミュニティセンター及び結核対策事業の運営に充てています。



コミュニティセンター内の農場

■ 小児保健システム強化事業

本事業は、「プライマリー・ヘルス・ケアプロジェクト」の実施（1997～2007）を通じて、JICAがルサカ郡で構築した都市型貧困層向け小児保健モデルを地方の4郡に展開し、予防的かつ持続的な小児保健に係る行政サービスの質を向上させることを目的としています。同事業の名称は「都市コミュニティ小児保健システム強化プロジェクト（JICA技術協力プロジェクト）」で、アスカ・ワールド・コンサルタント株式会社と共に受注し、2月から活動を開始しています。具体的には、保健省、各対象地域の保健局、保健センターのスタッフ、コミュニティの能力強化を図り、彼らとともに小児保健、環境衛生、収入創出を目的とした小規模起業に関する活動を実施しながら、その中で得られた成果・課題を共有していくことによって乳幼児死亡を減少させるための保健システムを強化していく予定です。

現地スタッフからのメッセージ

グレンダ・カサンガ（アシスタント・フィールド・コーディネーター）

私はグレンダ・カサンガと言います。AMDAザンビア事務所でアシスタント・フィールド・コーディネーターをしています。2011年の2月7日からAMDAザンビアで仕事をしていますが、AMDAで仕事を始めて以来、成人、小児の結核対策について多くのことを学んできました。

フィールドの現状を見ると、プロジェクトを続けるニーズが非常にあります。保健教育や栄養支援などを必要としている人がたくさんいます。最後に、ザンビアで活動する私たち、また患者たちへの日本の皆様からの支援に感謝申し上げます。



Djibouti

ジブチ

ジブチは、アフリカ東部「アフリカの角」に位置する人口82万人の国です。面積は四国の1.3倍ほどですが、アデン湾に臨むジブチ港はエチオピアを始め周辺国の海上貿易を担う拠点として栄えています。近年、ソマリア沖の海賊対策のため日本からも海上自衛隊が派遣されています。一方同国は1991年からソマリア、エチオピアなど周辺国からの難民・避難民を受け入れてきました。AMDAも、ジブチに逃れてきた難民に対する医療支援する事業を1992年に開始し、1993年からはUNHCR（国連難民高等弁務官事務所）の事業パートナーとして2~4つの難民キャンプにおいてソマリア・エチオピア難民に対する一次診療サービスを行ってきました。現在難民はアリアデ難民キャンプ一ヶ所と、一部都市に居住していますが、ここ数年のソマリア南部の情勢悪化の影響により、難民の増加が続いている。UNHCRのデータによると、2011年6月末時点の難民人口は約17,000人です。ただUNHCRの事業に加えて、AMDA-MINDSはキャンプ内の診療所で対応できない患者を高次の医療施設へ搬送し、質の高い治療を提供する、きめ細かなリファラルシステムの構築に取り組んでいます。



■ 難民への医療支援事業

首都ジブチ市から南西に車で約2時間半の所にアリアデ難民キャンプがあります。AMDAは1993年からUNHCRの事業パートナーとしてキャンプ内に設置された診療所で医療サービスを行っています。診療所では、当団体の国際スタッフを始め、ジブチ人看護師、難民ボランティアの協力を得ながら一日120~150名を超える患者への診療、妊産婦のケアと出産、乳幼児への予防接種や栄養不良児を始め妊産婦や授乳中の母親への補助食品の提供などを行っています。

また難民コミュニティの代表者で組織される CHC（コミュニティ保健委員会）や CHW（コミュニティヘルスワーカー）と連携しながら、トイレの設置、環境美化運動などの公衆衛生活動の他、コミュニティ住民への予防接種や HIV/ エイズ予防教育及びカウンセリングなど多岐にわたる保健衛生活動を行っています。



診察する看護師

この1年間に診療所で診察を受けた難民患者は合計36,268人で291人の新生児が診療所で誕生しました。難民コミュニティにおける活動では、25か所のごみ廃棄場と245基のトイレを設置しました。難民を対象とした保



健教育には11,169人（男性7,778人、女性3,391人）が参加し、コミュニティの清掃活動には8,613人（男性5,950人、女性2,663人）が参加しました。



清掃活動をする難民

■ 病院搬送サービス強化事業

難民キャンプでの一次診療活動では対応できない患者に対して、二次及び三次医療施設へのアクセスを確保するリファラル（難民キャンプから上位病院への搬送）サービスの強化を目指す取り組みを、2008年から外務省の「日本 NGO 連携無償資金協力」事業として実施しています。



病院に救急搬送するスタッフ

過去2年間の取り組みを通じて、アリアデ難民キャンプからアリサビエ地域病院やジブチ市内の高次医療施設へ適切に搬送する体制を確立することができました。アリサビエ地域病院に対しては、病院の受け入れ体制を強化するため、AMDA-MINDSの医師が病院スタッフへのトレーニングを行うなど、病院の能力強化にも貢献しています。現在はリファラル患者の受け入れ窓口であるジブチ事務所にリファラル担当の医師がコーディネーターとして配置され、処方された薬の妥当性をチェックする機能や入院患者のフォローアップなどのテクニカルな部分も向上し、搬送先病院との連携も強化されています。

この1年間にアリアデ難民キャンプからアリサビエ市、



アリアデ難民キャンプ診察所のスタッフ

ジブチ市の病院に搬送された患者は合計2,425人でした。本事業ではリファラルサービスの体制の確立・強化と合わせて、スタッフのトレーニングなど難民キャンプ診療所の診察能力の強化も行っており、母数となる難民が増加する中、リファラル患者の数は前年と比較して14%の減少となり、相乗効果をもたらすことができました。

現地スタッフからのメッセージ

アリ・アーメッド・モハメド (CHWスーパーバイザー)

私は2002年からAMDAでコミュニティヘルスと公衆衛生のスーパーバイザーとして働いてきました。現在はCHWスーパーバイザーとして、難民キャンプのコミュニティで活動するCHWを指導しながら、キャンプ内の保健衛生活動の促進を行っています。AMDAの活動を通して、これまで多くのことを学んできました。コミュニティの人とAMDAの医師との通訳を行いながら、医学的な知識や経験を積み、またアジアの人々の文化的・社会的視点を知ることができました。

文化的な違いから課題に直面することもありますが、その違いから学び活動を行っています。



▲ 右から2人目

Honduras

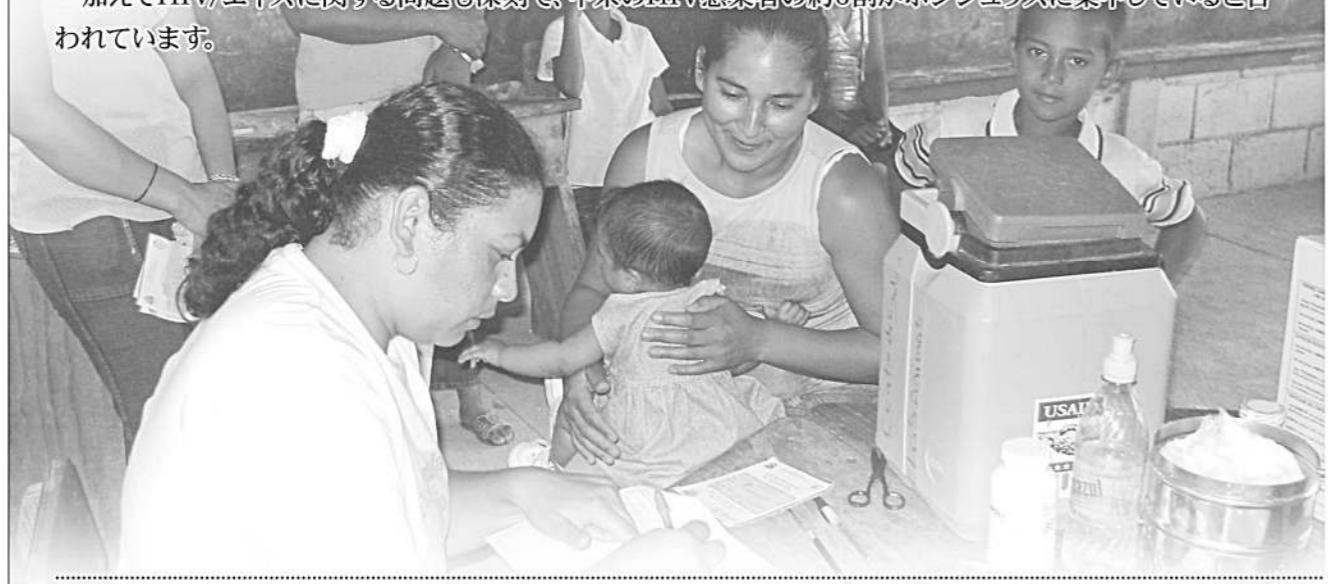
ホンジュラス



中央アメリカに位置するホンジュラスは、北部はカリブ海に面していますが、国土の大部分は山地であり、主要産業はバナナやコーヒーを中心とする農林業です。

同国は中南米の最貧国の一いつで、人口の約半数が貧困層です。地域内の他国と比較しても妊産婦と乳幼児の死亡率が高く、特に農山村地域では母子保健サービスが行き届いていないという問題を抱えています。例えば公共のバスが走っていないため、バイクや自動車などを持たない村人は徒歩で数時間かけて山道を下り、時には腰まで水に浸かりながら橋のない川をわたり、町にある保健所や病院に行かなければなりません。

加えてHIV/エイズに関する問題も深刻で、中米のHIV感染者の約6割がホンジュラスに集中していると言われています。



■ 母子保健向上支援事業

ホンジュラスでは乳幼児と妊産婦死亡の低減に向けた母子保健政策が打ち出され、母子保健の向上に力が注がれています。同国における妊産婦死亡の70%は家庭分娩で発生していますが、AMDA-MINDSの事業対象地域であるエルパライソ県は、出産件数のうち60%を家庭分娩（全国平均では40%）が占め、他の母子保健の指標も低水準であり、同保健政策の重点地域6県の1つとなっています。

このような状況の下、AMDA-MINDSは農村地域の母子保健サービスの向上に貢献するため、エルパライソ県内の65村を対象に事業を展開しています。この事業では、保健医療機関と地域をつなぐ役割を担う保健ボランティアを育成し、彼らを通じて妊婦の定期的な健診受診を促し、保健基金として緊急患者を村から医療機関へ搬送するための資金を積み立てる等、各村での保健活動を支援しています。また、遠い保健医療機関に行かなくては薬が手に入らないために下痢などの軽い症状が重症化してしまうこともあるため、各村にボラン

ティアが運営するコミュニティ薬局を設置して、住民がいつでも基礎的な薬を買うことができるよう支援しています。さらに、妊産婦死亡の軽減のため、活動地域内に3ヶ所ある母子保健センターの利用促進活動を実施し、同センターでの分娩を推奨しています。また、妊婦や住民が安心して受診できるよう保健所の環境整備を支援しています。



母子保健センターで生まれた子ども

本事業はJICA草の根技術協力事業（緊急経済危機対応一括型）、株式会社フェリシモなどみなさまの支援により実施しています。



コミュニティでの保健教育



コミュニティ薬局

■ HIV/エイズ対策事業

中米でもHIV/エイズの問題が深刻なホンジュラスですが、中でも青少年、性産業従事者、受刑者は特に感染リスクの高いグループです。

世界エイズ・結核・マラリア対策基金（世界基金）事業の一環として現地NGO等6団体と連携し、上記のハイリスクグループ16万人を対象にエイズ予防啓発活動を行っています。AMDA-MINDSは世界基金の資金受入責任機関から資金を受け、エイズ予防活動を行う現地NGOに資金提供を行う一方、それぞれのNGOの活動や予算執行状況のモニタリングを行っています。当団体がモニタリング等を行うことにより、現地の団体が世界基金事業に参加しやすい環境が整えられています。

また、世界基金とは別に、これまでに当団体が育成してきた青少年グループによる世界エイズデーのキャンペーンなどの予防啓発活動を行っています。

本事業は世界基金（GFATM）、AMDA鎌倉クラブ、株式会社フェリシモなどのみなさまのご支援により実施されました。



エイズ予防教育

現地からのメッセージ

マルコ・マラディアガさん（フティアバ保健委員会委員長、フティアバ保健所環境衛生技師）

今回の保健所改修によって、フティアバ地区全体が団結することができました。これまで、私も何度もフティアバ保健所のサービス向上のために奔走してきましたが、ここまで住民たちの協力が得られ、それが保健所の大がかりな改修、保健サービスの向上という形になったのは初めてのことです。保健所の改修は、当初計画していたものから大幅に規模を拡大することができ、生まれ変わった保健所で気持ちよく働いています。

また、今回の改修を通じてフティアバ保健所の長年の夢であった歯科や母子保健クリニックの併設に一步近づいた気がします。これらの開設にはまだまだ多大な手続きと時間、資金を要するでしょうが、今回の屋根改修事業の例とフティアバ地区住民との支援関係を構築できたおかげで、保健委員会としてもノウハウを得ることができ、決して夢ではないことが確認できました。

私たちの支援を求める声を拾ってくれたAMDAには本当に感謝しています。



Peru

ペルー

南米大陸のほぼ中央に位置するペルーは、エクアドル、コロンビア、ブラジル、ボリビア、チリと国境を接し、西側は太平洋に面しています。国土は日本のおよそ3.4倍で、砂漠からアンデス高地、ジャングルまで変化に富んだ風土と気候がその中に存在しています。また、かつて南米最大の帝国を築いたインカをはじめ、謎の空中都市といわれるマチュピチュや乾燥した大地に刻まれたナスカの地上絵など、南米といわれて思い浮かべるイメージの多くがある国ではないでしょうか。

ペルーの人口は約2980万人、首都リマには約821万人が生活しています。そしてリマで生活する人々のうち、約20万人が貧困者居住地域であるカラバイヨ地区に住んでいます。AMDA-MINDSは同地区を対象に2006年4月から母子の栄養改善支援事業を実施しています。

■ 母子の栄養改善支援事業 (2006年4月~)

本事業の対象地域であるカラバイヨ地区の住民の多くは、雇用や生活向上の機会を求めて地方から移住してきた人々です。乾燥した丘の斜面に何とか雨風をしのげる程度の家屋が無秩序に建てられており、水道や電気が整備されていないところも多く見られます。こうした環境の下、住民は厳しい生活を余儀なくされており、保健や医療の知識に触れる機会も限られていることから、栄養状態の良くない母子が多く見られます。特にこの地域の妊産婦の2割を占める10代の女性の3分の1が栄養不良と言われています。さらに、乳幼児の約半数が栄養の問題を抱えています。

AMDA-MINDSは、2006年4月から味の素「食と健康」国際協力支援プログラムの支援を受けて、母子の栄養改善とその効果が地域に波及するようネットワークづくりに取り組んでいます。地域の住民の中から保健ボランティアを育成し、乳幼児とその母親を対象にした栄養教育、幼児の

身体測定、栄養指導を組み合わせた保健教育プログラムを実施しています。

この事業では、教材作成の際ペルー味の素社の栄養専門家の助言を受けたり、共同で調理実習や事業のモニタリングを行ったりするなど同社と密接に連携して進められており、それが効果的・効率的な実施につながっています。



保健教育を実施する保健ボランティア(味の素社との共同モニタリング)

現地スタッフからのメッセージ

ウィリアム・イナフク (プロジェクト・コーディネーター)

私は、プロジェクト・コーディネーターとして関わる中で、次のようなことを学んできました。まず一つ目に、神益者の文化を尊重するということです。カラバイヨ地区は移民の方が多く住む地区であり、価値観が異なる人が集まって生活をしています。そのため、それぞれの文化的背景を考慮することが事業を行う上で重要になってきます。次に、地域の組織(団体)と連携するということです。保健ボランティアの主体性と努力は重要ですが、同時に神益者や保健ボランティアの興味をひく活動を行っている団体の協力を得ることが有効です。

最後に様々な人からの支援や協力を得るということです。ペルー味の素社をはじめ、保健ボランティア、地域の保健委員会の協力が、プロジェクトの効果を引き出しています。



▲ 写真最後列 右から2人目

事業一覧

■ 国際機関等

助成機関	事業国	事業名	年間契約精算額
WFP	ミャンマー	Implementation of a WFP assistance programme (Protracted relief and recovery operation - Myanmar 200032)	US\$38,287.13
GFATM	ホンジュラス	Fortalecimiento de la respuesta nacional para la promoción y protección de la salud en vih/sida financiamiento por el fondo mundial	US\$642,708.15
GFATM	ザンビア	GF-TB sub granting Programme 2010	US\$6,690.01 (ZMK32,112,025)
UNHCR	ジブチ	2010 UNHCR Project / 2011 UNHCR Project	US\$770,842.13

■ 外務省

制度名	事業国	事業名	年間契約精算額
日本NGO連携無償資金協力	ネパール	ルパンデヒ郡 16村における住民能力強化を通じた母子健康増進事業	US\$197,547.00
		シッダールタ母子専門病院周産期医療向上事業	US\$938,298.00
日本NGO連携無償資金協力	ザンビア	ルサカ市における小児を中心とした結核対策事業(フェーズ1)	US\$476,951.00
日本NGO連携無償資金協力	ジブチ	ソマリア・エチオピア難民に対するリファラル強化事業(第3フェーズ)	€ 331,512.00
		メティラ郡における生計向上プログラム(フェーズ1)	¥16,023,076
日本NGO連携無償資金協力	ミャンマー	コーカン特別区における母子保健事業(フェーズ1)	¥30,601,412
		バコク郡 31村における Healthy Village プロジェクト(フェーズ2)	¥33,111,768
日本NGO事業補助金	ザンビア	平成22年度国際開発協力関係民間公益団体補助金(NGO事業補助金)	¥551,746
NGO活動環境整備支援事業	本部	NGOインターナショナルプログラム	¥1,345,073
		NGO相談員	¥2,971,280

■ 独立行政法人国際協力機構 (JICA)

草の根技術協力事業パートナー型	ホンジュラス	エルバライソ県母子保健向上支援事業フェーズ2(第二年次)	¥24,753,000
草の根技術協力事業パートナー型	ザンビア	カニヤマ及びマケニ地区における結核・エイズ統合治療支援事業(第三年次)	¥15,145,515
草の根技術協力事業パートナー型	ネパール	ナフルバラシ郡4行政村における母子保健改善事業	¥6,578,868

■ 独立行政法人郵便貯金・簡易生命保険管理機構

国際ボランティア貯金	ザンビア	農場経営指導、農畜産物の販売支援及び結核患者への栄養補給に係る事業	¥7,867,000
	ネパール	産婦人科医療関係者への研修、妊産婦の周産期ケアの人材研修及び医療機材の配布に係る事業	¥6,901,000

■ 助成金その他

助成機関	事業国	事業名	年間契約精算額
味の素株式会社	ペルー	栄養改善のグッドプラクティス促進のためのネットワーク構築及び地域のエンパワーメント支援事業	¥1,300,000
フェリシモ地球村の基金	ミャンマー	「元気な赤ちゃんを産もう!」プロジェクト	¥650,000
フェリシモ地球村の基金	ホンジュラス	フティアバ保健所改修プロジェクト	¥530,000
フェリシモ地球村の基金	ミャンマー	バコク健康村基金プロジェクト	¥340,000

2011年度計画 (海外事業)

2011年度は、アジア、アフリカ、中南米の6カ国における事業の維持・発展、質の向上を図るとともに、新たな取り組みを行います。具体的には、インドネシアの南スラウェシ州において、酪農の技術支援を通じた生計向上・健康増進を目指した事業を開始する予定です。また、ミャンマーにおいては、既存の事業に加え、北シャン州における母子保健向上事業を新たに開始するとともに、バコク郡における村落保健改善事業を新たな地域に展開していきます。さらに、ペルーにおいては、AMDAグループの横の連携を活かし、AMDA沖縄県支部が主体となって実施するリマ市におけるエイズ予防事業に当法人も技術的なサポートを行います。

コンサルタント業務については、前年度終盤に開始したザンビアにおけるJICA技術協力プロジェクトの活動を本格的に実施していきます。これに加え、JICA事業の専門家や評価・調査の案件にも参画していく予定です。

国内活動

1. 奉仕団体（ロータリークラブ・ライオンズクラブ）との連携

- ・国際ロータリー第2780地区及び地区内の各ロータリークラブ

同地区に所属する各クラブからのご寄付でミャンマーでのマイクロクレジット事業を実施しています。新たに鎌倉ロータリークラブからの協力を得て、対象地域を拡大することができました。また、それぞれのクラブで実施されている例会や国際奉仕委員会セミナー等の席で活動報告を行いました。

・神戸甲南ライオンズクラブ

毎年ご支援をいただいている同クラブから2010年度もミャンマーの北シャン州コーカン自治地域100村へのご支援を頂戴し、妊産婦が衛生に対する意識を高め、病気を予防し健康を維持するための衛生キットの配布を行いました。



神戸甲南ライオンズクラブからの衛生キット

2. 企業との連携

- ・株式会社フェリシモ



フェリシモ キャンディ・フォー・チルドレン

寄付つき商品の開発とその販売にご尽力いただき、例

えば、バレンタインデー向けの「幸福のチョコレート」は、ザンビアの受益者を支援するための商品として発売され、カタログには前年度の報告をご掲載いただきました。さらに、Candy for Children, Happy Caps、ピースフルティタイム（紅茶）の企画販売を通じて、同社の多くの顧客にAMDA-MINDSの活動を広く知っていました。

・生活協同組合 おかやまコープ

ザンビア事業への支援が開始され、10月には「AMDA月間」として組合員からのご寄付やメッセージを頂戴しました。各店舗でのイベント（周年祭など）出展、勉強会（まるごとザンビア）への講師派遣なども行いました。

・イオン岡山店

近隣町内会等みなさんの協力を得て毎年行われるチャリティ餅つきやバザーの収益で、ジプチの難民キャンプの子どもたちに医薬品と食料品のご支援をいただきました。また、毎月の「黄色いレシートキャンペーン」により、文房具等のご支援をいただきました。

・キャドバリー・ジャパン株式会社

Come Smile Projectの歯磨きプログラムを実施しました。ネパールの16村で子どもたちとその母親を対象に、歯磨き指導や歯科検診等を実施しました。

・ムネ製薬株式会社

子ども向け商品に寄付金がつけられ、一新されたパッケージにはAMDA-MINDSの名前が記載されました。また、この取り組みは新聞各社、業界紙でも紹介されました。

・ゴールドマン・サックス証券株式会社

同社が実施する社会貢献プログラム「コミュニティ・チームワークス(CTW)」で社員の方々と、ネパールのシダールタ母子専門病院に飾るタペストリーを作成しました。

3. 出版関連

メデカルフレンド社の月刊誌『看護学生』の通年特集「海を越えたナース」で4月号、5月号、10月号、11月号に、現地駐在のスタッフが執筆した記事が掲載されました。また、旬報社発行の『世界の社会福祉年鑑 2010』の「国際社会福祉」の部で、そのうちの1項がAMDA-MINDSの団体および活動紹介に充てられました。



4. 広報活動

7月にホームページをリニューアルしました。新たに企業・団体向けのページ、教育関係者向けのページを作成し、さまざまな連携事業の紹介をしています。Weekly FlashやTea Breakでは引き続き最新情報や現地からのレポートを掲載しています。また、クレジットカード決済が可能となりました。

支援者向け機関誌として、四半期ごとにニュースレター（AMDA MINDS Newsletter）を発行し、各国の活動の事業や国内活動の報告をしました。

5. NGO相談員



NGO相談員

NGO相談員制度とは、国際協力分野で経験と実績をもつNGO団体等が、外務省の委嘱によりODAや国際協力活動全般、NGOの設立、組織の管理・運営など、市民やNGO関係者からの質問・照会に対して応答する制度です。国際協力への理解の促進のため、地方自治体や教育機関

などと協力し、国際協力関係のイベント等において相談業務や講演を行う「出張サービス」も実施しています。

2010年度中に700件以上の相談を受け、9回の出張相談サービスを行いました。出張相談としてはグローバル・フェスタをはじめ、ワン・ワールド・フェスティバル、アフリカン・フェスタなど都市圏で開催された国際協力に関わるイベントや、中国地方で開催されたイベントにNGO相談員として参加し、来場者からの様々な質問に、プロジェクト運営、組織運営に関する具体的な事例を交えながら対応しました。

6. 報告会の開催

在外勤務者の一時帰国に合わせ、活動報告会（finds Minds）を開催しました。活動とその成果や現地の様子などの報告を岡山で4回、東京で1回の合計5回開催し、100名以上の参加を得ました。また、企業連携の事例紹介などのセミナーへの出席依頼も受け、東京で1回、大阪で2回講師を務めました。



findsMindsザンビア

～AMDAの活動を知って～

ムネ製薬株式会社 代表取締役 宗 泰一さん

弊社は、兵庫県の淡路島にある製薬会社です。弊社の近くにある北淡診療所の鈴記医師からの紹介でAMDAの活動を知りました。

特にその事業活動にネパールに子供病院を建設し、その運営を支援していることを知り、深い感銘を受けました。

弊社は、現在全国に発売中の一般用浣腸薬「コトブキ浣腸」があり、シリーズの浣腸の中に小児用の10gがあります。同じ子供を対象にしていることで「コトブキ浣腸10」の売上の一部をAMDAに継続的に寄付することにしました。また、パッケージに“AMDAを通じネパールの子供病院を支援しています”的メッセージを印刷させていただいています。

このたび、東日本大震災が起こりました。弊社は、阪神淡路大震災で被災し、避難所に避難された方が生活の急変から便秘で困っておられ、浣腸を提供し喜ばれた経験があります。その経験から今回もAMDAの救援隊に浣腸を託し使っていただきました。

弊社の支援はわずかなものかも知れませんが、長く支援させていただきます。



▲ ムネ製薬（覚書調印）/写真後列左 宗さん

■ 貸借対照表

(単位：円)

I 資産の部		II 負債の部	
科目名	金額	科目名	金額
1 流動資産		1 流動負債	
現金	404,385	未払金	18,969,915
普通預金	72,857,449	前受金	47,780,541
外貨現金	12,722	預り金	3,418,617
外貨普通預金	14,666,801	借受消費税	2,255,732
郵便振替	217,805	流動負債合計	72,424,805
未収金	615,130		
前払費用	444,168	固定負債合計	0
仮払金	5,500,090	負債合計	72,424,805
海外流動資産	164,619,415		
仮払消費税	418,256		
流動資産合計	259,756,221		
2 固定資産		III 正味財産の部	
保証金	200,000	基本金	61,982,000
敷金	297,000	当期正味財産増加額(減少額)	125,846,416
固定資産合計	497,000	正味財産合計	187,828,416
資産合計	260,253,221	負債及び正味財産合計	260,253,221

(平成23年3月31日現在)

■ 収支計算書

(単位：円)

科 目		金 額	
I 収入の部			
1 会費収入		747,500	747,500
2 事業収入 アジア・アフリカ・中南米における人道支援 及び社会開発事業収入		433,156,046	433,156,046
3 寄付金収入		9,665,092	9,665,092
4 その他収入		12,165,095	12,165,095
5 その他の事業会計からの繰入金 当期収入合計		0	455,733,733
前期繰越収支差額			61,982,000
収入合計			517,715,733
II 支出の部			
1 事業費 アジアにおける人道支援及び社会開発事業 アフリカにおける人道支援及び社会開発事業 中南米における人道支援及び社会開発事業 日本国内の事業費： 会議、講演会、講座、研修、調査、研究、立案、評価、啓発、国際理解教育、広報、書籍等の出版、事業地見学・視察・スタディーツアーの企画運営に関する事業		92,321,912 139,936,025 81,194,147 7,748,278	321,200,362
2 管理費		8,686,955	8,686,955
当期支出合計			329,887,317
当期収支差額			125,846,416
次期繰越収支差額			187,828,416

(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)

各国現地事務所 2011年4月1日時点

■ ミャンマー	ヤンゴン統括事務所 メティラ事務所 パコク事務所 ラオカイ事務所 シャオカイ連絡事務所 ミッティ連絡事務所 ターシュウェタン連絡事務所 コンチャン連絡事務所	スタッフ数 80名
■ ネパール	カトマンズ事務所 バイラワ事務所 ブトワル事務所	スタッフ数 160名 (コミュニティ事業スタッフ 15名、病院スタッフ 145名)
■ ザンビア	ルサカ事務所	スタッフ数 10名
■ ジブチ	ジブチ事務所 アリサビエ事務所 アリアデ難民キャンプ診療所	スタッフ数 74名
■ ホンジュラス	テグシガルバ事務所	スタッフ数 12名
■ ペルー	リマ事務所	スタッフ数 2名
■ 岡山事務所	事務所 岡山市北区蕃山町4-5 岡山織維会館3階 スタッフ数 9名	
役員構成		
■ 理事長	鈴木 俊介	
■ 理事	飯塚 敏晃	
■ 理事	増島 勇次	
■ 監事	関田 富美雄	
AMDAグループ		
緊急救援 / 国内連携	特定非営利活動法人 AMDA http://amda.or.jp	
社会開発	特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構 http://www.amda-minds.org	
医療情報サービス	特定非営利活動法人 AMDA 国際医療情報センター http://amda-imic.com	
緊急救援 / 国際連携	AMDA International http://www.amdainternational.com	
福祉・医療・環境	AMDA 国際福祉事業団 http://www.miic.ac.jp	



特定非営利活動法人 AMDA社会開発機構

〒700-0818 岡山県岡山市北区蕃山町4-5 岡山織維会館3階
TEL:086-232-8815 / FAX:086-232-7668 / E-mail:info@ml.amda-minds.org / <http://www.amda-minds.org>